

けんぱくものしりシート

まが たま 勾 玉



まがたま 古代の人々が飾りとして身につけていたアクセサリのひとつです。古くは縄文時代（約12,000年前～2,300年前頃）から使われはじめ、古墳時代（4～7世紀頃）に最も多く見られます。

下の写真をよく見てください。

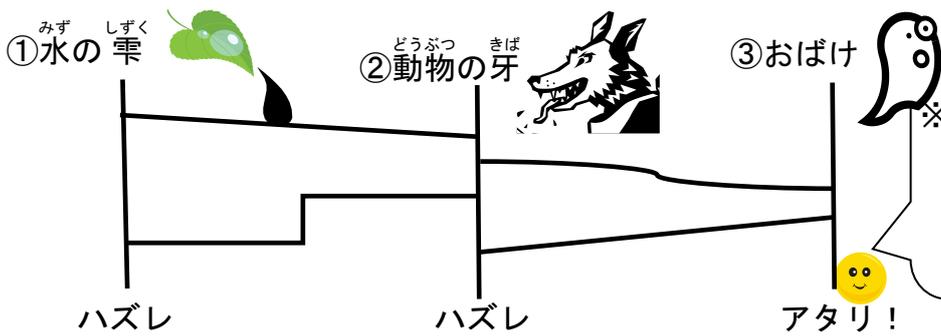
曲がった形をしているため、「まがたま」という名前となったと考えられています。漢字では『勾玉・曲玉』などと書きます。



ヒスイ製勾玉
盛岡市上米内遺跡
(縄文時代)

勾玉は少し変わった形をしていますね。それでは、ここでクイズに挑戦！

【クイズ】 勾玉の形は、次の3つのうち主にどれの形に似せて作ったと考えられているでしょうか？（答えあわせはあみだくじをたどってみてね！）



※くわしくはウラ面を見てね！

まがたま かたち
【勾玉の形のルーツ】

こちらは、クマの牙に孔をあけて作った垂れ飾りです。この様に動物（他に狼等）の牙に孔をあけて作った垂れ飾りは旧石器時代から見られ、人々が力強さを示すためのシンボル等として身につけていたと考えられています。



きばせい た かざ
牙製垂れ飾り
おおふなとしはせどうかいづか
大船渡市長谷堂貝塚
じょうもんじだい
(縄文時代)

その後、人々は牙の形に似せて石（ヒスイやメノウなど）やガラス・粘土などで形を作り、垂れ飾りを作るようになりました。それが勾玉となったと考えられています。
※この他にも、「月」や「お母さんのおなかのなかにいる赤ちゃん」の形など、色々な説があります。



まがたま
勾玉
はなまきしくまどうこふん
花巻市熊堂古墳
こふんならじだい
(古墳～奈良時代)

まがたま だれ なに つか
Q. 勾玉は、誰が何のために使っていたの？

A. 身分の高い人が力を示すためにアクセサリーとして使ったり、不思議な力を持つ玉としておまじないなどに使われたと考えられています。

まがたま いわて み
Q. 勾玉は岩手でも見つけられるの？

A. 岩手では主に奈良時代（8世紀頃）を中心として作られた古墳（土を高く盛った古いお墓）から勾玉が見つかっています。



せきしつふくげんもけい
石室復元模型
きたかみしながぬまこふんぐん
北上市長沼古墳群
こふんならじだい
(古墳～奈良時代)

こふんなかようす
古墳の中の様子です

おおむかしひと きも こ まがたま み
大昔の人はどんな気持ちを入れて勾玉を身につけていたのでしょうか。
はくぶつかん とき ようす おも う
博物館でその時の様子をじっくり思い浮かべてみてくださいね。

参考にした本 『アクセサリーの考古学』 地底の森ミュージアム 仙台市富沢遺跡保存館 1998年
『黄泉のアクセサリー—古墳時代の装身具—』 大阪府近つ飛鳥博物館 2003年 他

らいげつ がつ
来月（3月）の
けんぱくものしりシートは
れきし
歴史—4だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。